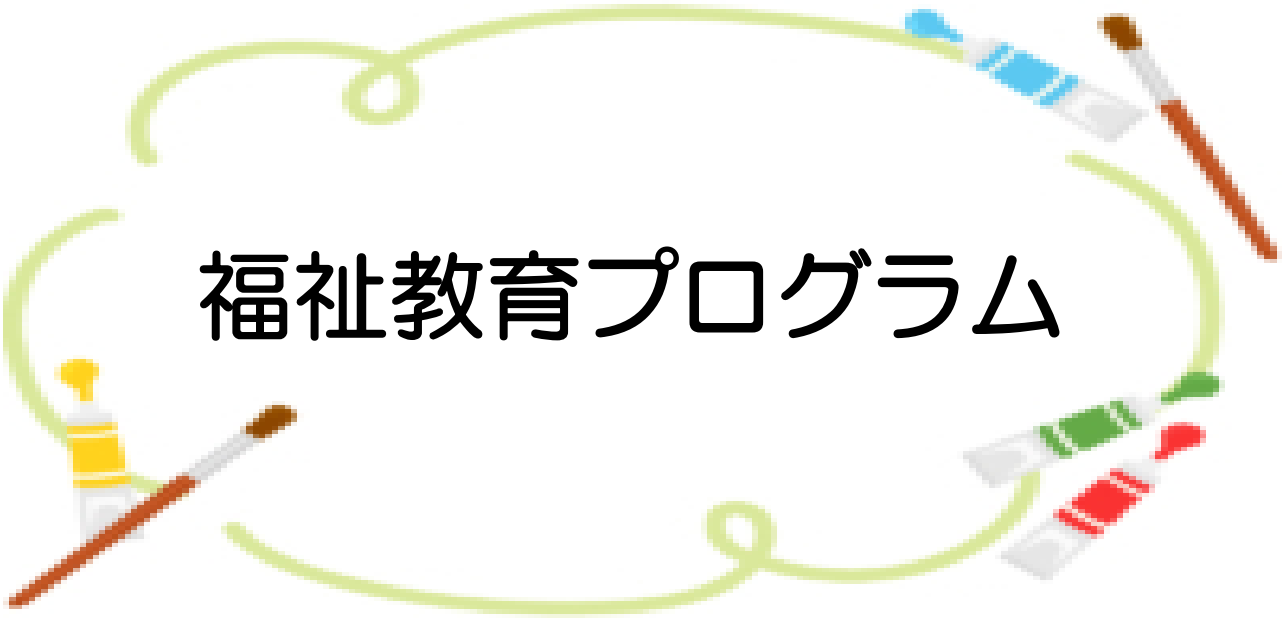


福祉教育プログラム

社会福祉法人大和市社会福祉協議会
やまとボランティアセンター

はじめに・・・

市社協は、“住民ひとりひとりの参加を基本に共に支えあう福祉のまちづくりを”を基本理念に、地域福祉活動の推進などを行っています。市社協がめざすものは、どんな障がいや問題をかかえていようとも、ひとりの人間として豊かに暮らしていける権利が保障されひとりひとりの個性や生き方が大切にされるような、いきいきとした地域社会をつくりあげていくことです。そしてその取り組みは、さまざまに生まれる暮らしの問題をともに悩み、学びあい、かかわりあう、主体的な活動づくりがあってこそ実現できていくものと考えます。

それは、住民自身が日常生活の中でどのような福祉課題があるのか、また、その課題解決のための方法を考え、解決のために行動することが、地域福祉推進を図ることにつながっていきます。

そのためには、子どもたちを含む地域住民が福祉について学ぶ“福祉教育”は地域福祉推進の重要な過程のひとつとなります。

今回、既存の福祉教育メニューに加え、大和市内高齢者施設とやまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループの協力により、施設職員や各ボランティアグループが培ってきた専門知識やスキルをもとに、福祉教育プログラムを新たに作成しました。

学校や企業等での福祉教育に、本書をご活用いただければ幸いです。

令和7年３月

社会福祉法人大和市社会福祉協議会
やまとボランティアセンター

もくじ

福祉施設職員による講話・車イス体験学習等…… 2

身体障がい者の福祉講演会…… 4

車イス介助法…… 6

アイマスク誘導体験プログラム…… 8

手話を理解するプログラム…… 10

手話コーラスプログラム…… 12

点字を理解するプログラム…… 14

視覚障がい者への読み上げ体験プログラム…… 16

学校内応急手当講習会プログラム…… 18

災害時に役立つ料理を知るプログラム①…… 20

災害時に役立つ料理を知るプログラム②…… 22

食育プログラム…… 24

栄養士による食育プログラム…… 26

子育てについて学ぶプログラム…… 28

貸し出し物品について…… 30

様式集…… 31

福祉施設職員による講話・車イス体験学習等

〈学習のねらい〉
・高齢者の特徴や配慮について学び、日常生活の中で思いやりの心を培いましょう。
・体験学習により車イスの使用方法や介助法を学び、介助し、介助される実体験を通して、介助する技術を学び、介助される人の思いを知りましょう。

講　　師	高齢者福祉施設職員など
内　　容	高齢者福祉施設職員による講話、車イス体験学習、映画上映等を行います。
対 象 人 数	応相談（クラスごとや学年全体等）
目安の時間	45分～1時間 30 分程度／回
場　　所	体育館、視聴覚室等
学校側の準備	マイク、講師用机、 体験学習の場合のみ、障害物となるカラーコーン等（必要に応じて）
社協の貸し出し物品	体験学習の場合、車イス（5台）、スロープ（3台）、段差（3台）、悪路（1台）等
費　　用	なし（映画上映会の場合のみ、上映料あり）
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「福祉講演会に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3 ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	

＜当日のながれ＞

会場セッティング　→　児童・生徒会場への移動　→　開始　→　講話等　→
質疑応答　→　学習のまとめ

※体験学習がある場合、学習が始まる１時間前に車イス・段差・スロープなどの資材の運び入れ等の準備があります。

＜事前学習例＞

●身近にある福祉施設の場所や役割などについて調べてみましょう。

●福祉の仕事がどの様なものがあるのか調べてみましょう。

＜事後学習例＞

●講話や体験学習で学んだことを振り返り、身近にある福祉や自分になにができるのかについてみんなで話し合ったり、作文にしたりしてみよう。

●車イス利用者の立場で想像してみましょう。ふだんのくらしの中で、使いやすいところと使いにくいところを見つめ直してみましょう。

＜その他＞

●体験学習については、「体験学習は怖かった」で終わらせず、体験学習での学びを活かして自分になにができるかを考えることが重要です。

＜参考資料＞

・大和市福祉推進委員会発行「心のバリアフリーブック」

・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク発行
「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう
～体にある障害と社会にある障害 ～」

・国土交通省発行「こころのバリアフリー」ガイドブック

身体障がい者の福祉講演会

〈学習のねらい〉
・障がいのある人の話を聞いて、障がいについての理解を深めましょう。
・様々な障がいがあり、人によって生活のしづらさや困りごとが違うことを知りましょう。
・障がいはあっても工夫や配慮があれば障がいのない人と同じような生活が出来ることを知りましょう。
・障がいについて知り、困っている人がいた時に自分に何が出来るのかを考えてみましょう。

講　　師	車イス利用者や視覚障がいのある人等
内　　容	障がいのある人等のお話を聞いて、障がいや生活について理解を深めます。そして、自分に何が出来るのかを考えるきっかけとします。
対象人数	応相談（クラスごとや学年全体等）
目安の時間	20～45分程度／回
場　　所	体育館、視聴覚室など
学校側の準備	マイク、講師用机等（必要に応じて）
社協・講師側の準備	
費　　用	応相談
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「福祉講演会に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3 ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	講師の方の体調管理のため、夏季・冬季はなるべく避けてください。

＜当日のながれ＞

会場セッティング　→　児童・生徒会場への移動　→　あいさつ　→　講演開始　→
質疑応答　→　学習のまとめ

＜事前学習例＞

●身の回りにある点字表示や点字ブロック、福祉のマークについて調べてみましょう。

●バリアフリーとは何かを考えてみよう。道路の段差といった「物理的なバリア」だけではなく、「情報のバリア」や「心のバリア」などが見つかるはずです。

＜事後学習例＞

●学んだことを作文に書いてみましょう。

●障がいのある人の話を聞いた後、自分たちに何が出来るのかを話し合いましょう。

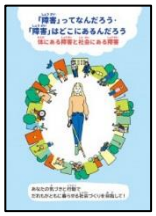
＜その他＞

●講演に、車イス介助法などの体験学習を組み合わせることもできます。ただ、「体験学習は怖かった」で終わらせず、体験学習での学びを活かして自分になにができるかを考えることが重要です。

＜参考資料＞

・大和市福祉推進委員会発行「心のバリアフリーブック」

・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク発行
「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう
～体にある障害と社会にある障害 ～」



・国土交通省発行「こころのバリアフリー」ガイドブック

<参考 YouTube 動画>

・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク作成
「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう
～体にある障害と社会にある障害 ～」

車イス介助法

〈学習のねらい〉
・車イスの使用方法や介助法を学び、介助し、介助される実体験を通して、介助する技術を学び、介助される人の思いを知りましょう。
・車イス利用者にとって使いやすい環境や使いにくい環境などを理解することで、日常生活の中で思いやりの心を培いましょう。

講　　師	地区社協のみなさん、市社協職員、福祉施設職員など
内　　容	車イス介助法を学び、実際に車イスに乗って介助し、介助される体験をします。
対象人数	応相談（クラスごとや学年全体等）
目安の時間	45分～1時間 30 分程度／回
場　　所	体育館、視聴覚室、校庭等
学校側の準備	マイク、講師用机、 障害物となるカラーコーン等（必要に応じて）
社協の貸し出し物品	車イス（5台）、スロープ（3台）、段差（3台）、悪路（1台）等
費　　用	なし
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「車イス体験学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3 ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	

＜当日のながれ＞

車イス・段差・スロープなどの資材の運び入れ　→　会場セッティング　→　児童・生徒会場への移動　→　開始　→　車イス介助法について説明（１０～１５分）　→　体験学習（介助者と被介助者を交代で体験）　→　質疑応答　→　学習のまとめ

＜事前学習例＞

●「障がい者のための国際シンボルマーク」等、福祉のマークについて調べてみましょう。

●バリアフリーとは何かを考えてみましょう。道路の段差といった「物理的なバリア」だけではなく、「情報のバリア」や「心のバリア」等が見つかるはずです。

＜事後学習例＞

●身の回りにある段差や歩道、駐車場等を、車イス利用者の立場で想像してみましょう。ふだんのくらしの中で、使いやすいところと使いにくいところを見つめ直してみましょう。

●学んだことを作文に書いてみましょう。

●障がいのある人の話を聞いた後、自分たちは何が出来るのかを話し合ってみましょう。

＜その他＞

●車イス介助法等の体験学習に、講演を組み合わせることもできます。「体験学習は怖かった」で終わらせず、体験学習での学びを活かして自分になにができるかを考えることが重要です。

＜参考資料＞

・大和市福祉推進委員会発行「心のバリアフリーブック」

・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク発行
「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう
～体にある障害と社会にある障害 ～」

・国土交通省発行「こころのバリアフリー」ガイドブック

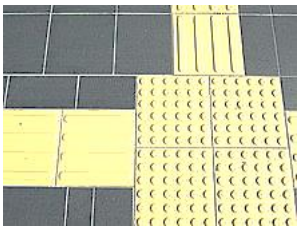
アイマスク誘導体験プログラム

〈学習のねらい〉
・アイマスク誘導法を学び、介助し、介助される実体験を通して、介助する技術を学び、介助される人の思いを知りましょう。
・視覚障がいのある人にとって使いやすい環境や使いにくい環境などを理解し、日常生活の中で自分に何が出来るのかを考えてみましょう。

講　　師	地区社協のみなさん、市社協職員等
内　　容	アイマスク誘導法を学び、実際にアイマスク・白杖を装着し、視覚障がいのある人の疑似・介助体験をします。
対 象 人 数	応相談（クラスごとや学年全体等）
目安の時間	45分～1時間 30 分程度／回
場　　所	体育館、視聴覚室、校庭等
学校側の準備	マイク、講師用机、 障害物となるカラーコーン・段差等（必要に応じて）
社協の貸し出し物品	アイマスク（45枚）、白杖（28本）
費　　用	なし
申込み方法	3ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに電話でご相談下さい。 TEL046-260-5643
備　　考	

＜当日のながれ＞

会場セッティング　→　児童・生徒会場への移動　→　アイマスク誘導体験について説明（１０～１５分）　→　体験学習（介助者と被介助者を交代で体験）　→　質疑応答　→　学習のまとめ



＜事前学習例＞

●視覚障がいのある人への配慮されたものとして、街中や家の中にある点字やスロープなどをさがしてみましょう。身の回りに多く見つかるはずです。

●「障がい者のための国際シンボルマーク」等、福祉のマークについて調べてみましょう。

＜事後学習例＞

●バリアフリーとは何かを考えてみましょう。道路の段差といった「物理的なバリア」だけではなく、「情報のバリア」や「心のバリア」等が見つかるはずです。

●身の回りにある段差や歩道、駐車場などを、視覚障がいのある人の立場で想像してみましょう。
ふだんのくらしの中で、使いやすいところと使いにくいところを見つめ直してみましょう。

●学んだことを作文に書いてみましょう。

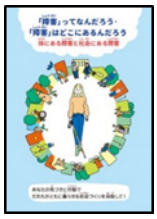
●障がいのある人の話を聞いた後、自分たちは何が出来るのかを話し合ってみましょう。

＜その他＞

●アイマスク誘導体験に、講演会を組み合わせることもできます。「体験学習は怖かった」で終わらせず、体験学習での学びを活かして自分になにができるかを考えることが重要です。

＜参考資料＞

・大和市福祉推進委員会発行「心のバリアフリーブック」



・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク発行
「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう
～体にある障害と社会にある障害 ～」

・国土交通省発行「こころのバリアフリー」ガイドブック

手話を理解するプログラム

〈学習のねらい〉
・手話について学び、聴覚障がいや手話について理解を深めましょう。
・手話体験をとおして、障がいによる生活のしづらさや生活の工夫について理解を深めましょう。
・聴覚障がいのある人が困っている時に、自分に何が出来るのかを考えましょう。

講　　師	大和市聴覚障害者協会会員、大和市手話通訳者の会会員
内　　容	聴覚障がいと手話について学びます。
対 象 人 数	クラスごと
目安の時間	45分～1時間30分／回
場　　所	教室
学校側の準備	
社協の貸し出し物品	
費　　用	交通費及び諸経費として、一クラスにつき4,000 円を目安にご用意ください。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「手話学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3 ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	

＜当日のながれ＞

事前打ち合わせ　→

当日各教室にて聴覚障がいのある人による講話・手話体験学習（４５分～１時間３０分）

＜事前学習例＞

●聴覚障がいのある人が日常生活の中でどんな時に困るのか、具体的に考えてみましょう。

●「聴覚障害者標識（聴覚障害者マーク）」等、福祉のマークについて調べてみましょう。

聴覚障害者標識

（聴覚障害者マーク）

＜事後学習例＞

●聴覚障がいのある人の話を聞いた後、自分たちは何が出来るのかを話し合ってみましょう。

●バリアフリーとは何かを考えてみよう。道路の段差といった「物理的なバリア」だけではなく、「情報のバリア」や「心のバリア」等が見つかるはずです。

●学んだことを作文に書いてみましょう。

＜その他＞

●聴覚障がいのある人にとって手話は大切なコミュニケーション手段の一つです。「手話ができて楽しかった」で終わらせず、体験学習での学びを活かして自分になにができるかを考えることが重要です。

＜参考資料＞

・大和市福祉推進委員会発行「心のバリアフリーブック」

・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク発行
「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう
～体にある障害と社会にある障害 ～」

・国土交通省発行「こころのバリアフリー」ガイドブック
1

手話コーラスプログラム

〈学習のねらい〉
・手話コーラスをとおして、聴覚障がいのある人との交流や聴覚障がいのある人の言語である手話について興味を持つきっかけとします。

〈講師紹介〉　大和市手話サークル双和会／大和市手話サークルなでしこ
やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
聴覚障がいのある人と健聴者が共にふれあい、手話技術と手話を広めるため、活動しています。

内　　容	手話コーラスを一緒に歌ってみよう！
対 象 人 数	学年ごと（90 人くらいまで）
目安の時間	45分程度／回
場　　所	音楽室、体育館等
学校側の準備	CDラジカセ、マイク、歌詞、音源（CDなど）
参 考 曲 目	さんぽ、花は咲く、ふるさと 翼をください、さくら（森山直太郎）
費　　用	交通費及び諸経費として、一回につき 5,000 円程度を目安にご用意ください。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「手話学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3 ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	曲目については、応相談

＜当日のながれ＞

打合せ・会場セッティング（30 分）　→　児童・生徒会場への移動　→
あいさつ(聴覚障がい者の話やサークル活動紹介等)　→
手話コーラス練習＆手話コーラス披露（40 分）

＜事前学習例＞

●手話ができた経緯や歴史について学びましょう。

＜事後学習例＞

●感想を共有しましょう。

点字を理解するプログラム

〈学習のねらい〉
・点字について学び、打ち方や点字の意義等について理解を深めましょう。
・点字体験をとおして、障がいによる生活しづらさと生活の工夫、またについて理解を深めましょう。
・視覚障がいのある人をささえるボランティアの話を聞いて、ボランティア活動について理解を深めましょう。

〈講師紹介〉　大和市点訳赤十字奉仕団
　やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
　点字による情報提供や広報誌・社協だより等の点訳資料の作成、視覚障がい者との交流会開催など、点訳を通じての視覚障がい者への支援活動をしています。

内　　容	視覚障がいと点字技術について学びます。
対 象 人 数	クラスごと
目安の時間	45分／回
場　　所	教室
学校側の準備	点字板、画用紙のような厚い紙
社協の貸し出し物品	点字板(50枚)
費　　用	交通費及び諸経費として、一クラスにつき 5,000 円を目安にご用意ください。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「点字学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3 ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	点字体験指導以外に、ボランティアグループ活動紹介や身近にある点字の紹介についてお話しができます。

＜当日のながれ＞

点字についての説明（２０分）　→

点字体験学習（点字をうつ／２０分）

＜事前学習例＞

●視覚障がいのある人への配慮されたものとして、街中や家の中にある点字表示やスロープ等をさがしてみましょう。身の回りに多く見つかるはずです。

●「障がい者のための国際シンボルマーク」など、福祉のマークについて調べてみましょう。

＜事後学習例＞

●身の回りにある段差や歩道、駐車場等を、視覚障がいのある人の立場で想像してみましょう。

●ふだんのくらしの中で、使いやすいところと使いにくいところを見つめ直してみましょう。

●バリアフリーとは何かを考えてみよう。道路の段差といった「物理的なバリア」だけではなく、「情報のバリア」や「心のバリア」等が見つかるはずです。

●学んだことを作文に書いてみましょう。

●障がいのある人の話を聞いた後、自分たちは何が出来るのかを話し合ってみましょう。

＜その他＞

●視覚障がいのある人にとって点字は自由に読み書きできる大切な手段の一つです。「点字を打てた。体験学習は楽しかった」で終わらせず、体験学習での学びを活かして自分になにができるかを考えることが重要です。

＜参考資料＞

・大和市福祉推進委員会発行「心のバリアフリーブック」

・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク発行
「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう
～体にある障害と社会にある障害 ～」

・国土交通省発行「こころのバリアフリー」ガイドブック

視覚障がい者への読み上げ体験プログラム

〈学習のねらい〉

・視覚障がいのある人をささえるボランティアの話を聞いて、ボランティア活動について理解を深めましょう。

・読み上げ・録音体験をとおして、障がいによる生活のしづらさと生活の工夫について理解を深めましょう。

・視覚障がいのある人が困っている時に、自分に何が出来るのかを考えてみましょう。

〈講師紹介〉　大和市録音奉仕会

やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。

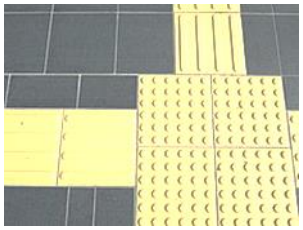
広報誌・社協だより等の文字情報をＣＤ及びテープに音訳し、視覚障がいのある人との交流会開催など、録音を通じての視覚障がい者への支援活動をしています。

内　　容	視覚障がいのある人への情報保証について考え、読み上げ・録音技術を学びます。
対象人数	クラスごと
目安の時間	45分／回
場　　所	教室
学校側の準備	DVDプレーヤーもしくはパソコン、プロジェクター
社協の貸し出し物品	アイマスク、白杖
費用	講師の交通費及び諸経費として、3000 円を目安にご用意ください。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「ボランティアグループによる福祉学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターにE-MAILもしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	体験以外に、ボランティアグループの活動についてもお話しできます。 また、白杖を使った視覚障がい者誘導法体験学習を追加することができます。

＜当日のながれ＞

ＤＶＤによるボランティア活動紹介（２０分）　→

録音についての説明と読み上げ体験学習（２５分）



＜事前学習例＞

●視覚障がいのある人への配慮として、街中や家の中にある点字やスロープ等をさがしてみましょう。身の回りに多く見つかるはずです。

●「障がい者のための国際シンボルマーク」など、福祉のマークについて調べてみましょう。

＜事後学習例＞

●みんなの身近にあったりみんなができたりするボランティア活動について考えてみましょう。

●身の回りにある段差や歩道、駐車場等を、視覚障がいのある人の立場で想像してみましょう。

●ふだんのくらしの中で、視覚障がいのある人の立場になって使いやすいところと使いにくいところを見つめ直してみましょう。

●バリアフリーとは何かを考えてみましょう。道路の段差といった「物理的なバリア」だけではなく、「情報のバリア」や「心のバリア」等が見つかるはずです。

●学んだことを作文に書いてみましょう。

＜その他＞

●「体験学習は楽しかった」で終わらせず、体験学習での学びを活かして自分になにができるかを考えることが重要です。

＜参考資料＞

・大和市福祉推進委員会発行「心のバリアフリーブック」

・特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク発行「『障害』ってなんだろう・『障害』はどこにあるんだろう～体にある障害と社会にある障害 ～」

・国土交通省発行「こころのバリアフリー」ガイドブック

学校内応急手当講習会プログラム

〈学習のねらい〉
・けがや病気などの緊急時や災害時等に活用できる知識について理解を深めましょう。
・身近な生活の中で災害が起きた時に、自分や他人の命を守れるように知識を深めましょう。

〈講師紹介〉　大和市災害救護赤十字奉仕団
　やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
　本部と災害対策チームと救護チームがあります。災害対策チームは、災害時に於けるボランティアの援助・指導をしています。災害時の救護活動と大和市の各種イベント会場での救護所活動をしています。

内　　容	緊急時や災害時に活用できる応急手当について学びます。
対 象 人 数	クラスごと（人数は、要相談）
目安の時間	45分／回
場　　所	空き教室
学校側の準備	要調整 三角巾、綿のバンダナなど、消毒用アルコール、使い捨て手袋
社協で準備できるもの	要調整
費　　用	交通費及び諸経費として、一学年もしくは一クラスにつき 5000 円を目安にご用意ください。なお、消耗品等が別途かかりますので、請求書にて後日請求します。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「ボランティアグループによる福祉学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3 ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	事前打ち合わせが必要です。

＜当日のながれ＞

会場セッティング(１０分程度)　→　児童・生徒会場への移動　→　２班に分けて応急手当を体験（質疑応答含む・３５分）

＜事前学習例＞

●一時避難場所・広域避難場所・避難生活施設のちがいを知りましょう。そして自分が避難する場所について調べてみましょう。

●日常生活の中で、地震が起きた時に避難する場所やその時の対応方法についてイメージしてみましょう。

＜事後学習例＞

●防災マップを見て、自分の住んでいる地域を見つめ直してみましょう。

●災害が起きた時のことを想定して、家族との連絡方法や集合場所を家族で話し合ってみましょう。また、自宅の防災リュックや防災グッズを確認してみましょう。

●救急車の要請の仕方を確認しましょう。

＜参考資料＞

・大和市危機管理課発行「大和市防災マップ」

災害時に役立つ料理を知るプログラム

〈学習のねらい〉
・災害時に役立つ調理について理解を深め、いざという時になにが必要なのか日頃から考えるきっかけにしましょう。

〈講師紹介〉　大和市災害救護赤十字奉仕団
　やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
　本部と災害対策災害支援チームと救護チームがあります。災害対策チームは、災害時に於けるボランティアの援助・指導をしています。災害時の救護活動と大和市の各種イベント会場での救護所活動をしています。

内　　容	災害時に役立つ簡単料理についての学習と調理＆試食をします。 ① 耐熱性のあるビニール袋でつくるご飯、②牛乳パックでつくる食器、③じゃがりこでつくるサラダ ※試食については要検討（保健所申請等あり）
対 象 人 数	クラスごと（4～6名を１チームとして学習）※先生、PTA対象でも可能
目安の時間	45分程度／回
場　　所	調理室
学校側の準備	牛乳パック２パック（児童生徒一人に付き） 食材　※食材準備については要相談
社協で準備できるもの	なし
費　　用	交通費及び諸経費として、1回の訪問につき 5000 円を目安にご用意ください。なお、消耗品等が別途かかりますので、請求書にて後日請求します。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「ボランティアグループによる福祉学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターに E-MAIL もしくは FAXで申し込んでください。
備　　考	事前に打ち合わせが必要です。

＜当日までのながれ＞

開催１ヶ月前くらいに事前打ち合わせ→当日会場セッティング（開始１時間前）　→児童・生徒が会場への移動　→災害時に役立つ料理についての講話・調理実習・試食・片付け（４５分）

＜調理メニュー例＞

① 耐熱性のあるビニール袋でつくるご飯・おかずシリーズ

via www.maff.go.jp

②牛乳パックなど紙で作る食器づくり（お皿・スプーン）

③じゃがりこサラダ

災害時に役立つ料理を知るプログラム②

〈学習のねらい〉
・災害時に役立つ調理について理解を深め、いざという時に日頃からなにが必要なのかを考えるきっかけにしよう。

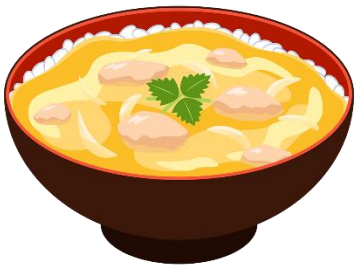
〈講師紹介〉　大和市食生活改善推進協議会
　やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
　食生活をとおした健康づくりを共に勉強し、“おいしく　楽しく　健康に”をモットーに、住民の皆さんの健康づくりの案内役として活動しています。

内　　容	災害時に役立つ簡単料理についての学習と調理をします。
対 象 人 数	クラスごと（4～6名を１チームとして学習）
目安の時間	1時間 30 分程度／回
場　　所	調理室
学校側の準備	食材　※食材準備については要相談です。
社協で準備できるもの	なし
費　　用	交通費及び諸経費については要相談です。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「ボランティアグループによる福祉学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターにE-MAILもしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	事前に打ち合わせが必要です。

＜当日までのながれ＞

開催１ヶ月前くらいに事前打ち合わせ→当日会場セッティング(開始２時間前)　→
児童・生徒会場への移動→災害時に役立つ料理についての講話と紙食器づくり（２０分位）
→　調理実習・片付け（１時間１０分）

＜調理メニュー例＞



缶詰をつかった料理“焼き鳥缶で親子丼”

缶詰をつかった料理“サバ缶カレー”

via www.maff.go.jp

ビニール袋で炊くご飯～お湯ポチャごはん～

食育プログラム

〈学習のねらい〉
・食育について理解を深めよう。
・健康的な生活を送るために必要な食に関する知識や体験を身につけよう。

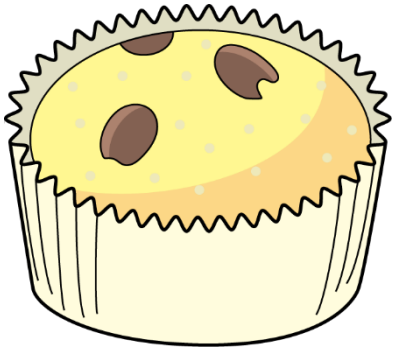
〈講師紹介〉　大和市食生活改善推進協議会
やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
食生活をとおした健康づくりを共に勉強し、“おいしく　楽しく　健康に”を
モットーに、住民の皆さんの健康づくりの案内役として活動しています。

内　　容	食育･栄養についての講話と調理指導をします
対 象 人 数	クラスごと（4～6名を１チームとして学習）
目安の時間	1時間 30 分程度／回
場　　所	調理室
学校側の準備	食材　※食材準備については要相談です。
社協で準備できるもの	なし
費　　用	交通費及び諸経費については要相談です。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「ボランティアグループによる福祉学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターにE-MAILもしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	事前に打ち合わせが必要です。

＜当日までのながれ＞

開催１ヶ月前くらいに事前打ち合わせ→当日会場セッティング(開始２時間前)　→
児童・生徒会場への移動　→食育・栄養についての講話（１５分位）　→
調理実習・試食・片付け（１時間１５分）

＜調理メニュー例＞



野菜もとれておいしい
“野菜蒸しパン”

野菜たっぷりの“すいとん”

みそだれが香ばしい
“五平餅”

栄養士による食育プログラム

〈学習のねらい〉
・食育について理解を深めよう。

〈講師紹介〉　栄養士みつわ会
　やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
　管理栄養士・栄養士という専門性を生かして、地域であらゆる年齢の方を対象に健康づくり活動を積極的に行っています。

内　　容	食に関するはなし、調理体験等ワークショップ 例えば…「調理の基本」「栄養と栄養素」「消化と吸収」「味覚体験」 ※希望があれば、エプロンシアター、パネルシアター可
対 象 人 数	応相談（クラスごとや学年ごと等） ※先生、PTA対象でも可能
目安の時間	45分～90分程度／回
場　　所	応相談（調理室、体育館、教室等）
学校側の準備	応相談
社協で準備できるもの	
費　　用	応相談
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「ボランティアグループによる福祉学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターにE-MAILもしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	事前に打ち合わせが必要です。

＜当日のながれ＞

会場セッティング　→　児童・生徒会場への移動　→栄養士による「食育についてのプログラム」（45 分～90 分）　　→　質疑応答

※調理実習を行う場合は、事前準備のために 1 時間 30 分～2 時間前から会場を使用します。

＜事前学習例＞

●お家の味噌汁のだしの材料、具やつくり方について調べる。

＜調理実習例＞

●ご飯の炊き方

●だしをとった味噌汁

子育てについて学ぶプログラム

〈学習のねらい〉
・子どもの発達と子どもの健やかな発育に大切なことについて学ぶ。
・命の大切さをしり、自身が大切にされたことを思い出し、自己肯定感を得る。

〈講師紹介〉　大和たんぽぽの会
　やまとボランティアセンターに登録しているボランティアグループ。
　乳幼児と保護者等を対象とした「子育てほっとサロンたんぽぽ」を開催し、乳幼児の遊ぶ場や子育て中の保護者がくつろげる場とあわせて子育て相談ができる場の提供をおこなっています。

内　　容	子どもの発達と子どもの健やかな発育に必要なことについての講話を行います。
対象人数	クラスごと、学年ごと
目安の時間	45分／回
場　　所	教室ごとに
学校側の準備	
社協の貸し出し物品	
費　　用	講師の交通費及び諸経費として、講師1名につき1000円を目安にご用意ください。
申込み方法	申込みには、大和市社会福祉協議会ホームページの「福祉について学びたい」→「書式ダウンロード」にある「ボランティアグループによる福祉学習に関する講師依頼表」をご利用ください。その依頼表に必要事項を記入し、3ヶ月以上前に、やまとボランティアセンターにE-MAILもしくはFAXで申し込んでください。
備　　考	

＜当日のながれ＞
ボランティア活動紹介（１５分）→子どもの発達についての講話（３０分）
＊妊婦体験学習を加えることができます。

＜事前学習例＞
●親に「子育てをしていてうれしかったことやつらかったこと」についてインタビューをする。

＜事後学習例＞
●感想文を作成し、学習をふりかえる。

貸し出し物品について

●疑似体験セットの貸し出し

高齢者疑似体験用具（５セット）、
点字板（５０枚）、布製アイマスク（４５枚）、白杖（２８本）、
福祉体験学習用車イス（５台）、段差・スロープ（３セット）、
対　象：市内在住・在勤の方・団体
費　　用：無料
申込み：市社協やまとボランティアセンターへ電話でお問い合わせください。
（TEL046-260-5643）

●疑似体験セットの貸し出し

高齢者疑似体験用具（５セット）、妊婦疑似体験用具（２セット）、
視覚障がい者疑似体験用具（10 セット）、
福祉体験学習用車イス（５台）
対　象：市内学校・団体
費　用：無料
申込み：大和市健康福祉総務課へ電話でお問い合わせください。
（令和７年度から福祉総務課に課名が変更します）
（TEL046-260-5604）

●疑似体験セットの貸し出し

妊婦疑似体験用具（1 セット）、沐浴セット（７セット）
対　象：市内学校等
費　用：無料
申込み：大和市すくすく子育て課へ電話でお問い合わせください。
（TEL046-260-5609）

福祉講演会に関する講師派遣について

講師派遣を希望される方は、次の依頼表をやまとボランティアセンターへファックスで送付してください。

なお、講師調整やお打合せなど行う関係上、概ね開催希望日の３ヶ月前までにご依頼ください。講師調整後、ご連絡いたします。

依頼日：令和　　年　　月　　日

やまとボランティアセンター　行
FAX　０５０－３７３０－９４３０
TEL　２６０－５６４３

福祉講演会に関する講師依頼表

日　時	第１希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
	第２希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
	第３希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
会　場				
内　容	希望される番号及び項目に〇をつけてください。 １　視覚障害者による講演会 ①　講話とサウンドテーブルテニス活動紹介 ②　講話と盲導犬についての学習 ２　高齢者福祉施設で働いている職員による講話、車イス体験学習、映画上映会等 具体的な内容 実施単位 学年（　　）人　・　全学年（　　）人			
対　象	学　年	～　　年生	人　数	人 (　　クラス)
学習の 目的又は目標				
依頼者	学校名		担当者	
	所在地	〒		
	電話番号		ファックス番号	
備　考				

※　講師の方により、講座費用、交通費、実施時間等が決められている場合がありますので、詳細については、やまとボランティアセンターにご相談ください。

※　講師の方の体調管理のため、夏季、冬季はなるべく避けてください。

車イス体験学習に関する講師派遣について

講師派遣を希望される方は、次の依頼表をやまとボランティアセンターへファックスで送付してください。

なお、講師調整やお打合せなど行う関係上、概ね開催希望日の３ヶ月前までにご依頼ください。講師調整後、ご連絡いたします。

依頼日：令和　　年　　月　　日

やまとボランティアセンター　行
FAX　０５０－３７３０－９４３０
TEL　２６０－５６４３

車イス体験学習に関する講師依頼表

日　時	第１希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時			
	第２希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時			
	第３希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時			
会　場					
内　容	具体的な内容 実施単位 全体　・　各クラスごと（　　）人 車イスの有無 持っている（　　）台　・　持っていない				
対　象	学　年	～　　年生	人　数	人 （　　クラス）	
学習の 目的又は目標					
依頼者	学校名		担当者		
	所在地	〒			
	電話番号		ファックス番号		
備　考					

※　交通費及び諸経費、詳細については、やまとボランティアセンターにご相談ください。

手話についての学習に関する講師派遣について

手話技術を学ぶだけでなく、聴覚障がいのある人の想いや聴覚障がいについて理解していただくため、やまとボランティアセンターでは、手話の講師派遣を行っております。

講師は、１手話学習については大和市聴覚障害者協会と大和市手話通訳者嘱託員、２手話コーラスについては大和市手話サークル双和会会員、大和手話サークルなでしこ会員など、日頃から手話に携わっている方々です。

講師派遣を希望される方は、次の依頼表をやまとボランティアセンターへファックスで送付してください。なお、講師調整やお打合せなど行う関係上、概ね開催希望日の３ヶ月前までにご依頼ください。講師調整後、ご連絡いたします。

依頼日：令和　　年　　月　　日

やまとボランティアセンター　行
FAX　０５０－３７３０－９４３０
TEL　２６０－５６４３

手話学習に関する講師依頼表

<table>
<tr><td rowspan="3">日　時</td><td>第１希望</td><td colspan="3">令和　　年　　月　　日（　　曜日）
時　　分　～　　時　　分　（　　）校時</td></tr>
<tr><td>第２希望</td><td colspan="3">令和　　年　　月　　日（　　曜日）
時　　分　～　　時　　分　（　　）校時</td></tr>
<tr><td>第３希望</td><td colspan="3">令和　　年　　月　　日（　　曜日）
時　　分　～　　時　　分　（　　）校時</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>内　容</td><td colspan="4">希望される番号及び項目に〇をつけてください。
１　聴覚障害者によるミニ講演と簡単な手話学習（各クラスごと）
２　手話コーラスを一緒に歌ってみよう（学年ごと）
３　その他（　　）
具体的な内容……</td></tr>
<tr><td>対　象</td><td>学　年</td><td>～　　年生</td><td>人　数</td><td>人
（　　クラス）</td></tr>
<tr><td>学習の
目的又は目標</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">依頼者</td><td>学校名</td><td></td><td>担当者</td><td></td></tr>
<tr><td>所在地</td><td colspan="3">〒</td></tr>
<tr><td>電話番号</td><td></td><td>ファックス番号</td><td></td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

※　１の交通費及び諸経費として、一クラス１校時あたり 6,000 円を目安にご用意ください。
　　２の交通費及び諸経費として、一クラスあたり 5,000 円を目安にご用意ください。

※　詳細については、やまとボランティアセンターにご相談ください。

点字についての学習に関する講師派遣について

講師派遣を希望される方は、次の依頼表をやまとボランティアセンターへファックスで送付してください。講師調整やお打合せなど行う関係上、概ね開催希望日の３ヶ月前までにご依頼ください。講師調整後、ご連絡いたします。

講師は、点字による情報提供や交流会開催など点訳を通じて視覚障碍者への支援活動を行っている大和市点訳赤十字奉仕団の皆さんです。

依頼日：令和　　年　　月　　日

やまとボランティアセンター　行
FAX　０５０－３７３０－９４３０
TEL　２６０－５６４３

点字学習に関する講師依頼表

日　時	第１希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
	第２希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
	第３希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
会　場				
内　容	具体的な内容 実施単位 全体　・　各クラスごと（　　）人 点字盤の有無 持っている（　　）台　・　持っていない			
対　象	学　年	～　　年生	人　数	人 （　　クラス）
学習の 目的又は目標				
依頼者	学校名		担当者	
	所在地	〒		
	電話番号		ファックス番号	
備　考				

※　交通費及び諸経費として、一クラスあたり５，０００円を目安にご用意ください。
※　開催日決定後、一度事前打ち合わせのお時間をいただきます。

ボランティアグループによる福祉学習に関する講師派遣について

講師派遣を希望される方は、次の依頼表をやまとボランティアセンターへファックスで送付してください。

なお､講師調整やお打合せなど行う関係上､概ね開催希望日の３ヶ月前までにご依頼ください。講師調整後、ご連絡いたします。

依頼日：令和　　年　　月　　日

やまとボランティアセンター　行
FAX　０５０－３７３０－９４３０
TEL　２６０－５６４３

ボランティアグループによる福祉体験学習に関する講師依頼表

日　時	第１希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
	第２希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
	第３希望	令和　　年　　月　　日（　　曜日） 時　　分　～　　時　　分　（　　）校時		
会　場				
内　容	希望される番号と対象単位に〇をつけてください。 １　視覚障がい者への読み上げ体験（大和市録音奉仕会）クラスごとのみ ２　手話コーラス（大和市手話サークル双和会・ 大和市手話サークルなでしこ）　学年ごとのみ ３　学校内応急手当講習会（大和市災害救護赤十字奉仕団）　クラスごとのみ ４　災害時に役立つ料理を知る①（大和市災害救護赤十字奉仕団） クラスごとのみ ５　災害時に役立つ料理を知る②（大和市食生活改善推進協議会） クラスごとのみ ６　食育プログラム（大和市食生活改善推進協議会）クラスごとのみ ７　栄養士による食育プログラム（栄養士みつわ会）クラスごと・学年 ８　子育てについて学ぶ（大和たんぽぽの会）　クラスごと・学年			
対　象	学　年	～　　年生	人　数	人 （　　クラス）
学習の 目的又は目標				
依頼者	学校名		担当者	
	所在地	〒		
	電話番号		ﾌｧｯｸｽ番号	
備　考				

※　講師の方により、講座費用、交通費、実施時間等が決められている場合がありますので、詳細については、やまとボランティアセンターにご相談ください。

※　講師の方の体調管理のため、夏季、冬季はなるべく避けてください。